

第3回「草津川跡地(区間6)活用検討懇話会」

ニュースレター

平成 28 年 1 1 月 4 日 発行：草津市、栗東市

草津市と栗東市が協働して、草津川跡地（区間6）のうち、両市の市域界が位置している部分の整備に向けた土地の利活用方法について話し合うことを目的に懇話会を開催しました。懇話会は、全3回の実施を予定しており、最終の第3回懇話会を平成 28年 10月6日（木）に開催しましたので、開催内容等についてご紹介致します。

★懇話会の開催日程

	テーマ	内容
第1回 H27.11.25 14:00～	懇話会の目的と基本計画の確認、および広場の活用について	懇話会の進め方やこれまでの跡地整備に関する取り組み、対象区間の概要や周辺状況について説明し、検討条件の共有を図った上で意見交換を行う。 ・対象区間における広場の活用について ・防災道路について
第2回 H28.1.25 14:00～	広場空間の利活用方法を踏まえた、道路計画について	・前回の意見交換の内容をもとにした広場空間や道路の状況について説明し、意見交換を行う。
第3回 H28.10.6 14:00～	草津川跡地（区間6）の利活用について（総括）	これまでの意見交換の内容をもとにした道路計画について説明、総括を行う。また、今後の検討項目として以下の内容に関する意見交換を行う。 ・境界隣接部処理の構造について ・広場空間活用について

※今回部分を太枠で囲っています

★第3回懇話会の内容紹介

第3回懇話会では、これまでの懇話会の意見を踏まえて作成したスタディ模型を用いて、道路計画について説明を行い、今後の検討事項に関して、委員の方々に意見交換を行っていただきました。

～第3回懇話会プログラム～

* 開会

* 前回懇話会のまとめ

* 模型を用いた説明

* 意見交換

* 閉会



▲ 模型を用いた説明



▲ 意見交換の様子

★主な意見の整理

■防災道路（草津市道 草津川線）に関する意見

- 本検討区間西側の取付道路（砂原大橋への接続道路）に関して、民地との高低差が生じるとホコリ等の影響もあるため、出来るだけ平面的な接続が望ましい。
- 県道六地蔵草津線は交通量が多いため、防災道路（現草津市道）と県道を上流側（東側）で結ぶことにより、交通量の緩和が図れるのではないかと。
- JR東海道新幹線の上流側に防災ステーションがあり、JR東海道新幹線下に道路を通すことが困難なことは理解しているが、防災ステーションへの資材運搬等が可能なアクセスについても考慮する必要があるのではないかと。
- 今後継続して協議・検討を行っていく必要があるが、基本的な方針としては、今回提示のあった第4案の道路計画案で問題ない。

■境界隣接部の構造に関する意見

- 樹木を植えると落ち葉の問題があるため、パターンⅢが望ましい。樹木の管理がきちんとされるのであれば、そういった問題も少ないかもしれない。
- ホコリ等の問題があるため、フェンスを張った上で低木は設置してほしい。案としては、パターンⅡが望ましい。
- プライバシーの問題を考慮すると、樹木の隙間等に配慮して高木と低木の組み合わせ等、詳細な検討が今後必要である。
- 樹木等の管理が困難な場合、民地側ではなく、道路側に樹木を設置することも一つの案である。
- パターンⅡの様な堤体を残す場合、堤体によりスペースが狭くなるため、広場利用を考慮した検討が必要となる。
- 樹木に関して、プライバシーや環境の面で設置することが望ましい。住民によって違う意見を持たれている方もいる可能性があるため、全てを一律の対策とする必要はないのではないかと。

■広場空間活用に関する意見

- 広場空間の利用に関しては、あまり建造物は置かずに、多目的広場やグラウンドゴルフの様な、広い空間が望ましい。
- 駐車場やトイレの設置について、必要性を含めた検討が必要である。
- 民間施設を誘致するというのも一つの案ではないかと。
- 夏の暑い時期等を考えると、日陰となるスペースや飲み物が購入できるスペースも必要ではないかと。